

写真1 / 最新鋭の高輪ゲートウェイ駅も乗降客はまばら

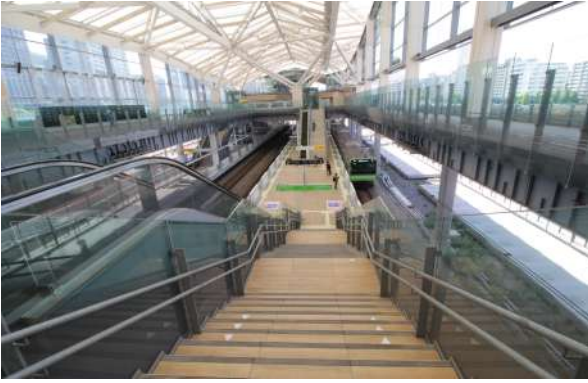


写真2 / ガランとした駅前（高輪ゲートウェイ駅）



高輪ゲートウェイ駅を核に進められる品川開発プロジェクト 起爆剤となるべき五輪開催の不透明化はどの程度影響する!?

取材・構成 / 本誌編集部

☆前途洋々も現時点は寂しい高輪ゲートウェイ駅

本紙では昨年3月の高輪ゲートウェイ駅・暫定開業以後、駅周辺で進むプロジェクト《品川開発》の模様を昨春、昨秋と2回レポートした。

今回はその続編、2021年4月末時点でのプロジェクト《品川開発》の現場レポートをお届けしたい。

高輪ゲートウェイ駅の周辺にオフィスビルや、ホテル・マンション・ショッピングセンターなどの施設が入居する4棟の高層ビルを建設するJR東日本の超大型プロジェクト《品川開発》の竣工と、街開きが予定されているのは2025（令和7）年度。まだ4年も先とあって建物本体の建設開始までには至っていない。



写真3 / 営業中の旗がなびく水素ステーションだが…

現時点では昨秋行われていた街区地下部分の基礎工事の様子はもう見られず、第1～第4の4つの街区は土に全面を覆われていた《写真4、6、7、8参照》。

ちょっと見ると、まだ何も手を付けられていないかのようにも思われるかもしれない。だが、ここからいよいよ、建物本体の基礎部分の工事が始まるというところなのだろう。

そして、撮影は3度目の緊急事態宣言が発動される2日前（4月23日）だったせいもあってか、プロジェクト用地全体が、嵐の前の静けさのような塩梅に静まり返っていたのが印象的だった。

2020東京オリパラの開催時期を完成の里程標の一つにして進められてきた、丸の内・大手町地区、渋谷地区、池袋地区、新宿地区などの大型再開発事業は、現在、その全貌がある程度見える形になっている。

しかし、2020東京オリパラの開催時期に合わせ、まずはプロジェクト全体の核となる高輪ゲートウェイ駅の開業を目指し、その後に周辺街区の開発に取り掛かろうという計画だったのがプロジェクト《品川開発》だ。したがって、これが予定通りといえ、まさにその通りなのだが、起爆剤となるべき五輪の開催が新型コロナウイルスの影響で不透明になりつつある現況を受けてか、現状はなんとなく意気が上がらない様相にみえてしまう。

しかも、丸の内や渋谷、新宿などがすでに出来上がっ

*本文、後略